

u/l, 胃癌 $697 \pm 1,068$ u/l, 結腸直腸癌 309 ± 271 u/l, 肝細胞癌 329 ± 477 u/l, 胆管胆嚢癌 431 ± 293 u/l, 膵癌 298 ± 229 u/l, 乳癌 303 ± 634 u/l, 卵巣癌 449 ± 907 u/l, 前立腺癌 182 ± 90.6 u/l, 膀胱癌 329 ± 240 u/l, 白血病 $1,386 \pm 1,531$ u/l で、特に転移が明らかな症例で高値を示す傾向が顕著であった。ところが、甲状腺癌 141 ± 167 u/l, 子宮癌 101 ± 22.5 u/l, 睾丸腫瘍 102 ± 68.2 u/l, 悪性リンパ腫 95.9 u/l と健常人と差の認められない疾患もあった。また、良性疾患群(143例)では、慢性腎不全で 176 ± 57.5 u/l と有意に高い成績であったが、他の疾患では健常人と差が認められなかった。また、妊婦では 371 ± 341 u/l と高値であった。一方、膵癌1例とS字状結腸癌1例の計2例では臨床経過中の血中 TPA 値を測定観察したところ病態の増悪とともに血中 TPA 濃度が上昇し、同時に測定した血中 CEA 値と同様の変動を示した。そこで血中 CEA 値を測定した症例のうち142例では同時に血中 TPA 値も測定し両者を比較したところ $r = +0.423$, $y = 13.9 \pm 109$ と危険率5%で有意に相関した。また、肝細胞癌3例では臨床経過中の血中 TPA 値を測定観察したが、一定の成績はえられず、また血中 AFP 濃度とも異なる動きであった。

8. NCA の Radioimmunoassay に関する研究 (I) 血中 NAC 測定について

浜津 尚就	(滋医大・放)
浦 恭章 越智 幸男	(同・中検)
細田 二郎	(同・二内)
宮崎 忠芳	(京府医・放)
梶田 芳弘 八谷 孝	(同・二内)

CEA like-antigen として Nonspecific Crossreacting Antigen (NCA, MW 60000) を Hammarström より入手し、その免疫学的検討を行うとともに Radioimmunoassay を試みた。

NCA は、市販 CEA 抗体の何れとも交叉反応を示すが、通常 assay で使用する濃度では、わずかしこ認められない。 α_1 -AG 抗体との反応では、NCA, CEA とともに高い交叉性が認められた。NCA をウサギに免疫して得た自家製の抗 NCA ウサギ血清は、4,000 倍希釈した時に Roche standard の CEA と交叉反応率は、約12%であった。次にわれわれの開発した PEG を分離法とする NCA (MW60000) の Radioimmunoassay では、50~

2,000 ng/ml まで測定可能であり、良好な standard curve が得られた。健常人 39 名の血中 NCA 値は、105~285 ng/ml に分布し、 $\text{mean} \pm 2SD$ より正常範囲を 85~300 ng/ml と設定した。血中 CEA 5 ng/ml 以上の癌患者 40 例の CEA 値とは、相関係数 0.354 で相関は認められなかった。

結論：

- 1) 分子量 60000 の NCA は、 α_1 -AG 抗体と免疫学的に交叉反応を示すことを確認した。
- 2) 健常人の血中 NCA 値は、85~300 ng/ml であった。
- 3) 血中 NCA 値は、血中 CEA 値と相関は認められず CEA のように有用な腫瘍マーカーとは思われない。

9. 原発性肝がんの血清フェリチン

中野 俊一 長谷川義尚 井深啓次郎
橋詰 輝己 鈴木 敦司

(大阪府立成人病セ・アイソトープ診療科)

われわれは原発性肝がんにおける血清フェリチン (Ft) の臨床的意義をしらべた。症例は昭和 57 年 4 月より 58 年 3 月までの 1 年間に ^{67}Ga スキャンを行った症例のうちの 65 例である。原発性肝がん 33 例のうち、組織学的診断の行われたのは 12 例で、その他の原発性肝がんおよび肝硬変 32 例は臨床的に診断された。血清 Ft の測定はリアグノストフェリチン(ヘキスト社)を用いて行った。血清鉄は松原法、不飽和鉄結合能 (UIBC) はラムゼー法によった。正常例の血清 Ft は男子 60 例の平均値 $\pm SD$ は 135.8 ± 75.5 ng/ml, 女子 60 例では 78.5 ± 53.7 ng/ml であった。健常男子の平均値 $+2SD$ 以上を異常値とすると原発性肝がん 33 例中異常値を示したのは 20 例 (61%) で平均値は 600 ± 697 ng/ml であった。アルファフェトプロテイン (AFP) が 400 ng/ml 以上であったのは 21 例 (64%) で、400 ng/ml 以下の 12 例中血清 Ft が高値を示したのは 7 例であった。5 例 (15%) では両者いずれも増量を示さなかった。また両者の間には一定の関係をみとめなかった。一方肝硬変について血清 Ft をみると 32 例中、高値を示したのは 14 例 (44%) でその平均値は 411 ± 415 ng/ml であった。肝硬変においては血清 Ft は GOT とは相関せず、血清鉄との間に正の相関 ($r = 0.39$)、UIBC との間に負の相関 ($r = -0.71$) がみられた。原発性肝がんにおいては 3 例で、血清 Ft は 2,000 ng/ml 以上の著